

## ■「効果の見える治水事業」

### 愛媛県 堂々地区(八幡浜市栗野浦)の急傾斜地崩壊対策事業



愛媛県南予地方局八幡浜土木事務所長

いのうえ しんぞう  
井上 眞三

#### ■事業の概要

当該事業箇所は、佐田岬半島付け根の八幡浜市南部に位置する斜面(延長L=140m)で、人家20戸、県道舌間・八幡浜線が保全対象となっています。

平成17年4月6日正午頃に、晴天にもかかわらず、集落に近接する斜面が高さ40m、幅約20mにわたって崩れ、3階建てアパートの2階と3階に土砂の一部が流れ込みました。この被害による人的被害はありませんでしたが、4世帯7名に避難勧告、3世帯3名が自主避難しました。

災害発生を受けて、(独)土木研究所土砂管理研究グループ地すべりチーム、愛媛大学教授らが現地調査を実施しました。その結果、被災原因は災害発生の約2週間前に福岡県北西沖の玄界灘付近で発生した福岡県西方沖地震等により地山内部の緩みが進行し、降雨により地山が飽和状態となって強度低下したため崩落したものと推定されました。

当箇所は全体的に長大斜面で、斜面全体の対策は困難であるため、待受け擁壁工を主体とした計画としましたが、崩壊した斜面には不安定な土塊が残っていることから、抑止工として法枠工及びアンカー工を採用しました。また、施工斜面は人家に近接しているため、待受け擁壁の切土掘削が少なくなるようコマ基礎工を採用しました。施工にあたり、進入路が狭いことから施工に時間を要しましたが、平成20年度に完成しました。

当地方局では、このような急傾斜地崩壊防止施設の整備を引き続き実施していくとともに、がけ崩れ災害に対する啓発などのソフト対策についても併せて実施し、ハード・ソフト一体となった土砂災害対策を進めたいと考えています。



土砂や岩の一部が流れ込んだ様子



住宅の屋根を土砂や岩が突き破った跡



## 「安きに居りて危きを思う」



愛媛県 八幡浜市長 おおしほ いちろう  
大城 一郎

八幡浜市は愛媛県西端にある佐田岬半島の付け根に位置し、北に伊予灘・西に宇和海を望み、丘陵地が多く、海はリアス式海岸が続き、温暖で風光明媚な所です。古くは、九州や関西方面との海上交易が盛んで「伊予の大阪」と謳われ、現在は、年間50万人近くが行き来する西日本有数の八幡浜港を抱え、四国の西の玄関口、西四国の交流・交易活動の拠点として発展してきました。

温暖な気候と地形をいかした柑橘栽培が盛んで、温州みかんの美味しさはひとしおです。また、漁業も盛んで魚市場は四国一の規模を誇り、朝早くからセリの声でにぎわう風景と新鮮な海の幸は当市の名物となっています。

自然災害も極めて少なく、昭和18年の記録的豪雨による大水害及び昭和21年の南海地震以降、60年余り大災害のない穏やかで恵まれた市であります。

災害の少ない市ではありますが、近い将来発生が確実と言われております、南海地震等あらゆる災害に備えた防災体制を構築することが喫緊の課題であり、様々な支援活動や教育研修を積極的に推進していこうと心がけています。

防災対策は、ハード対策とソフト対策が一体となった総合的対策が大切であると考えております。

特にソフト対策として、市民に「防災の心」「防災の知恵や技術」「防災のつながり」といったものをしっかり身に付けて頂くよう、平成22年3月に千丈川洪水ハザードマップを作成しました。このハザードマップは、河川流域の4,800世帯に配布し、千丈川の氾濫等による浸水想定区域、災害時の危険箇所、避難所等を明示することで、平常時から広く住民の防災意識の向上を図り、水害時における人的被害等を最小限に防ぐことを目的に活用しております。

今後とも、「安きに居りて危きを思う」の考えのもと、国、県をはじめとする関係機関、そして市民と協働しながら、防災対策を進めて参ります。



千丈川洪水ハザードマップ



平成16年台風16号千丈川